

「安全なまちづくり」に関する意識調査

プラン・インターナショナルは、世界 22 カ国において女の子や若い女性が直面している危険について調査を実施しました。

おもな調査結果

- プランが対象 22 カ国の専門家への聞き取りによる調査によると、セクシュアル・ハラスメントが女の子や若い女性が直面しているもっとも大きな危険性であることが明らかになりました。
- この調査は、社会や文化が違えども女の子や若い女性が普遍的に都市部で直面している危険性に焦点をあてたもので、22 カ国という世界規模で実施したものとしては初めてのものです。
- 6 大陸の 22 カ国を対象としてオンライン調査を実施し、約 400 人の女性の権利、子どもの権利そして都市部の安全に関する専門家の見識をまとめ上げました。

● 調査結果

- ・ 22 都市の専門家の 78%は、セクシュアル・ハラスメントが女の子や若い女性がそれぞれの都市で直面しているもっとも高い、または高い危険であると回答しました。また 77%は、セクシュアル・ハラスメントは公共の場で非常に頻繁に、または頻繁に起きていると答えました。
- ・ また 60%の専門家は、こうしたセクシュアル・ハラスメントの問題は警察などの管轄機関に報告されることは無いか、またはあっても非常に少ないと回答しました。
- ・ 性暴力は女の子や若い女性が直面しているセクシュアル・ハラスメントに次いで 2 番目に高いリスクであり、57%の専門家は女の子や若い女性にとって非常に高い、または高いリスクであると示しました。
- ・ 47%の専門家は性暴力が公共の場で起こっていることを指摘し、35%の専門家は警察などの管轄機関への被害報告がなされていない、またはほとんど報告されていないと答えました。
- ・ 多くの都市では、昼間に女の子や若い女性が外出するのに危険は無いとした一方で、半数以上に及ぶ 53%の専門家は、夜間に彼女らが外出することは、非常に危険、または危険であると指摘しました。
- ・ 同様に、多くの都市では昼間に女の子や若い女性が公共交通機関を利用することに危険は無いとした一方で、48%の専門家は、夜間に彼女らが公共交通機関を利用することは非常に危険、または危険であると述べました。
- ・ 69%の専門家は、都市での危険に対応するために女の子や若い女性はいつも、ま

たはかなり頻繁に、振る舞いを変えていることを示しました。

- 58%の専門家は、女の子や若い女性が都市における安全について意思決定に関わられていない、またはほとんど関われないと指摘しました。
- 58%の専門家は、女の子や若い女性が、都市における安全について地元の政策や計画づくりの場に彼女らの意見が届けられていない、またはほとんど届けられていないと述べました。（東京では89%の専門家がこのことを指摘しました。）
- 53%の専門家は、性暴力の被害を受けた女の子のための支援体制が存在しないか機能していない、または機能しているとしてもほとんど効力がないと言及しました。

● 各都市の特徴や傾向

- 専門家による見解から、都市における危険性を順位づけると、ボゴタ（コロンビア）、ヨハネスブルグ（南アフリカ）がもっとも危険な都市として、またストックホルム（スウェーデン）がもっとも安全な都市としてあげられました。
- 性暴力や窃盗・強盗という観点からは、ヨハネスブルグ（南アフリカ）がもっとも危険な都市として、またハノイ（ベトナム）と東京がもっとも安全な都市であるとされています。
- 女の子だけの街歩きや公共交通機関を利用するにあたり、リマ（ペルー）がもっとも危険な都市として、またストックホルム（スウェーデン）がもっとも安全な都市として認識されました。
- カンパラ（ウガンダ）は、誘拐や殺人に女の子が巻き込まれるリスクがもっとも高い都市であるという結果でした。

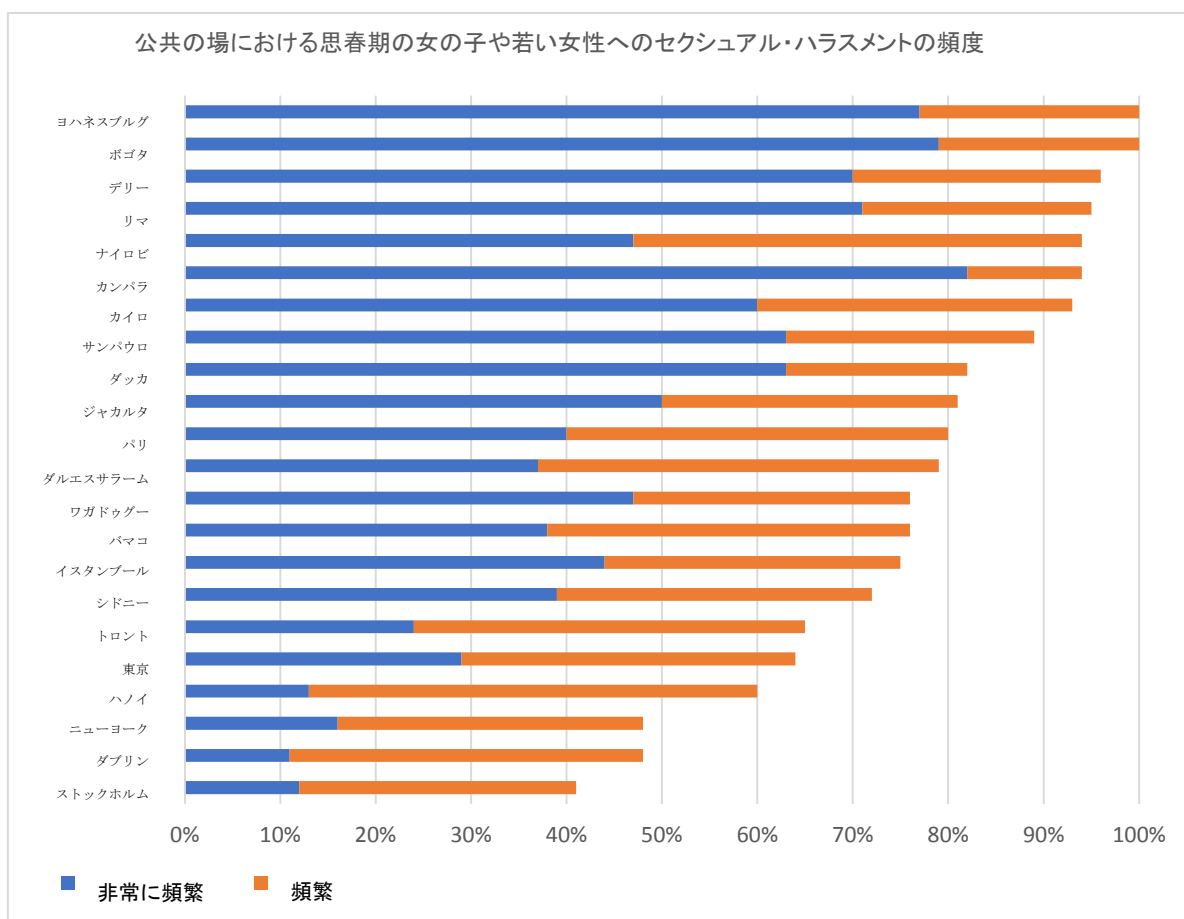
- この調査は独立した世論調査コンサルタントである ComRes（コムレス社）により実施されました。調査方法とその結果はコムレス社によって検証されています。

※実施 22 都市（以下、調査結果より安全でない都市順に）：リマ（ペルー）、カンパラ（ウガンダ）、ダッカ（バングラデシュ）、ボゴタ（コロンビア）、ヨハネスブルク（南アフリカ）、カイロ（エジプト）、デリー（インド）、パリ（フランス）、サンパウロ（ブラジル）、ナイロビ（ケニア）、ジャカルタ（インドネシア）、ワガドゥグー（ブルキナファソ）、シドニー（オーストラリア）、イスタンブール（トルコ）、ハノイ（ベトナム）、ダルエスサラーム（タンザニア）、バマコ（マリ）、東京（日本）、トロント（カナダ）、ダブリン（アイルランド）、ストックホルム（スウェーデン）、ニューヨーク（アメリカ合衆国）

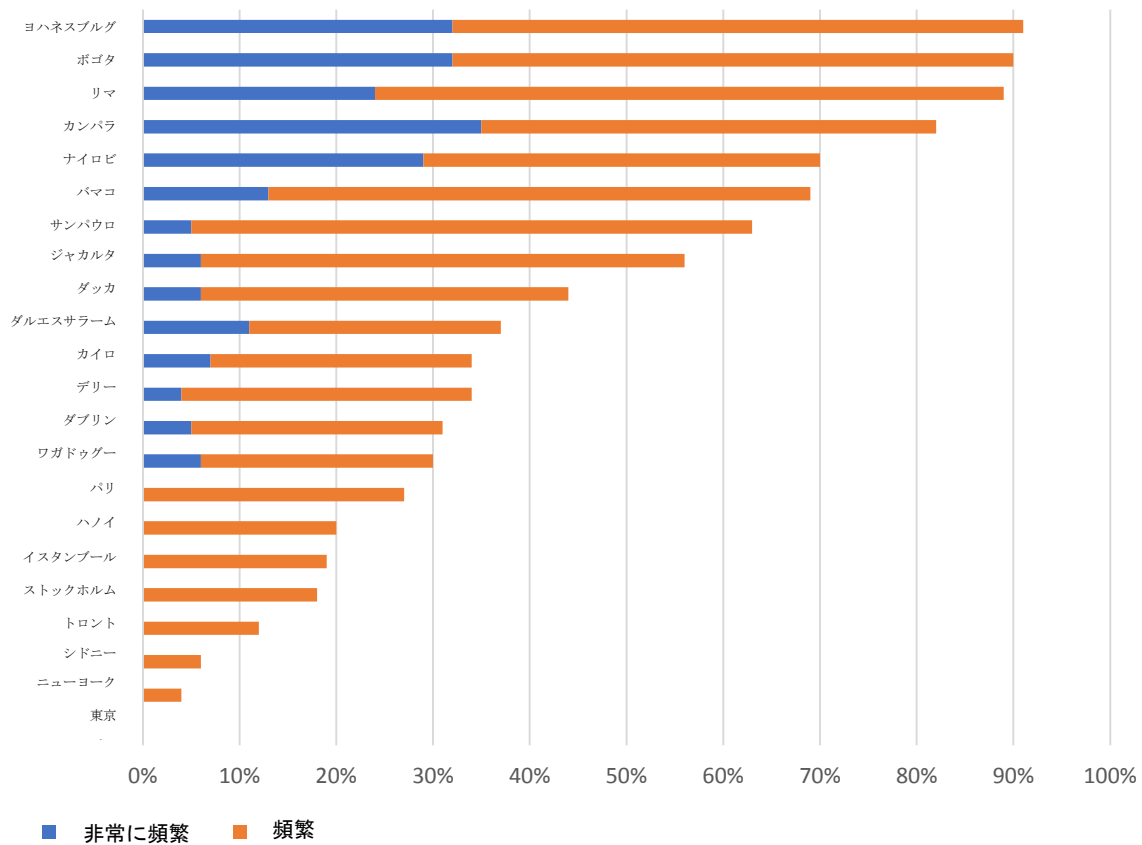
- プランは「女の子にとって安全なまちづくり」プログラムをリマ、カンパラ、カイロ、デリー、ナイロビ、そしてハノイ、サンフランシスコ、アスンシオン（パラグアイ）、ホニアラ（ソロモン諸島）で実施しています。このプログラムは、思春期の女の子に

とって安全で、女の子に対して責任を果たし、彼女らを包摂するまちづくりを目指しています。

- プランは、世界の都市において女の子や若い女性たちが体験していることに関する研究を、より掘り下げていきます。これにより、女の子たちが直面している暴力や差別といった問題に取り組み、女の子たちが安全に暮らす権利を享受することができると思っています。
- プランは、これとは別に女の子や若い女性の安全に関して、それぞれの都市が抱える課題を捉え、5都市（デリー、カンパラ、リマ、シドニー、マドリード）において調査を実施しています。この調査結果は、2018年の「世界ガールズ・レポート2018」の一部として、10月11日に発刊されます。
- 2025年には18歳未満の女の子は約10億人に達すると言われています。その中の数百万人は2030年までに都市部で生活するという50億人に含まれます。



公共の場における思春期の女の子や若い女性が窃盗や強盗にあふ頻度



都市における安全についての政策策定へ 思春期の女の子や若い女性が参加できている程度

